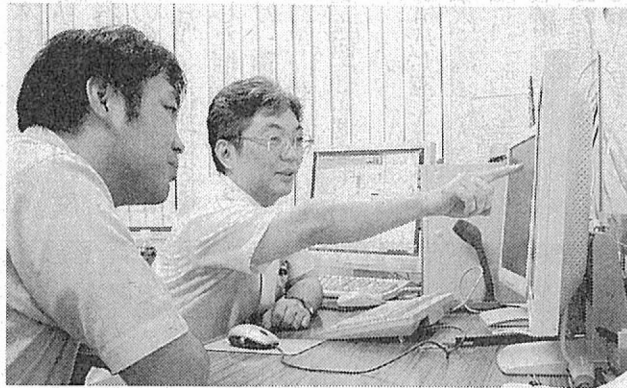


ネット通じ患者も閲覧



↑ITカルテのさらなる改良点について話す
村永文学助教(左)と平野宏文講師
—鹿児島大学病院

鹿大病院がITカルテ

鹿児島市の鹿児島大学病院で、患者と医師が診療デー

タを共有できる「ITカルテ」の運用が軌道に乗り始めている。インターネットを使える環境があれば、患者がいつでも自分の診療記録や画像を自由に閲覧できるほか、自分でその日の病状を書き込むこともできる。これまでの電子カルテとは異なる患者参加型のシステムだ。

現在、医療機関のカルテの意見)を求めたい場合、初め保存義務期間は五年だが、イの医療機関でもこれまでのインターネット上にあるITカルテ診療記録をその場で確認できルテは、生涯にわたって保存

や使用が可能。セカンドオピ 考案したのは平野宏文講師
ニオン(主治医以外の医師の(四六)脳神経外科)と村永

医師の地域連携にも有効

文学助教(四六)医療情報部。鹿児島市のITシステム会社が製品化し、〇七年に一般向けサービスを開始。今年一月から鹿大病院で本格的に運用を始めた。

医師の地域連携に効果を発揮するのも特徴だ。患者をほかの専門医に紹介する際、各都道府県・診療科ごとに出ているITカルテ会員の医師を選ぶ。依頼された医師には、電子メールでその旨の通知が届き、経費や労力がかからずスムーズにやりとりができる。インターネット上に医療情報

報が置いてあるシステムのため、セキュリティーは万全にしているという。患者と主治医のみがアクセスできる仕組みになっている。医師は、患者が持っている「診察キー」を知らなければ、カルテにアクセスできない。

現在、県内の医師を中心に約百人が登録しているが、平野講師は「できるだけ多くの医師に活用してもらいたい」と呼びかけている。医師は無料で登録できるが、患者は六千三百円の年会費が必要。高齢の患者がインターネットを活用できるかも課題とみられるが、「子どもがアクセス権を管理し、遠く離れた親の病状や治療状況を把握することに役立っているケースもある」といふ。http://itkarte.jp/